

ゼミ合宿報告

報告：小林 由美

本研究室では、週1回の院生ゼミに加え、年に2回の院生ゼミ合宿を実施している。

昨年度の夏合宿を1998年9月23～24日1泊2日で鎌倉あじさい荘にて、春合宿は1999年4月1日～2日に国立婦人会館にて行なった。ゼミ合宿の概要を報告したい。

I 夏合宿

実施日 1998年9月23～24日

場所 鎌倉あじさい荘ー江ノ電長谷駅下車徒歩5分

合宿に向う車中で、鎌倉のガイドブックを手にしたカップルがいた。あなたはデート、私はフアイト！そんな語呂合わせをしていたら、鎌倉に着いてほどなく、私達を待っていたかのように雨が降ってきた。あいにく…というか…またもや“絶好の合宿日和”となった。幹事松井の粋な計らいで、古都鎌倉ならではの上品な風情ある料亭で昼食をとり、その後、合宿先へと向った。眼前には相模湾、荒波に漕ぎ出したサーファー…。そんな屋外の喧騒にも思いをはせる余裕もなく、ゼミ合宿は下記のようにそれぞれが発表し、全員で質疑応答・討議するという形式で進行した。

9月23日

- 13 時～ 修士課程 2 年渋谷がその修士論文「高校生の自己肯定感とジェンダーの関わり」に関する調査結果を報告
- 14 時半～ 博士課程 1 年藤野が社会調査論ゼミの今後の運営と文献選択について議題提起
- 16 時～ 博士課程 1 年松井が博士論文進行状況報告、及び研究室紀要 2 号翻訳作業の今後の予定について議題提起
- 17 時半～ 夕食
- 19 時半～ 田代 教育史学会発表について報告
- 21 時～ 懇親会

9月24日

- 9 時～ 博士課程 2 年小林が「助産録集計からみる出産の変化」について報告
- 10 時半～ 博士課程 2 年森政が博士論文の枠組み と進行状況報告
- 12 時～ 昼食
- 13 時半～ 橋本 講評 今後の課題

討議の中心は渋谷の本年度提出修士論文についてであった。我々は、調査対象である高校生の思いに近づくべく、過ぎ去った日を切れそうな糸を手繰りながら振り返り、意見を述べた。

その過程において、決して度外視することができない「調査者の立場性」。まず、それを見つめ、認識して行くことの重要性和その意義について再確認することとなった。研究者が生き、何かに所属する人間である以上、論者に何の立場もないということとはあり得ない。であるからこそ、自

分の立場を見つめ、それを認識することにより、その研究における客観性を高めるよう努め、論じる。これぞ、これまでの社会調査論ゼミで学んだことである。この学びが非常に活かされた合宿であった。

Ⅱ 春合宿

実施日 1999 年 4 月 1 日～2 日

場所 国立婦人会館－東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩 15 分

4 月 1 日

- 11 時～ 博士課程 3 年森政が「山形県櫛引町調査」結果報告
- 12 時 50 分～ 昼食
- 13 時半～ 博士課程 3 年小林が研究の概要、「産婆・助産婦テキストにおける出産の定義の変化」結果報告
- 15 時 10 分～ コーヒーブレイク
- 15 時半～ 博士課程 2 年松井が年間計画と研究所紀要掲載原稿について報告
- 17 時～ 博士課程 2 年藤野が「終末期がん看護に携わる看護婦の効果的なタッチの実践－10 人の看護婦の聞き取り調査の検討－」結果報告
- 18 時～ 夕食
- 19 時半～ 研究室紀要編集会議

4 月 2 日

- 9 時～ 新修士 1 年河内が自己紹介と研究計画報告
研究室メンバー自己紹介
- 10 時～ 田代 「敗戦後日本における『純潔教育』」研究計画報告
- 11 時～ 橋本 総評と本年度の抱負

渋谷が修士号を手に就職、三浦が病欠…と、二人不在の非常に寂しい感の合宿であったが、修士入学式を目前にした河内が 4 月 1 日夕刻から参加してくれた。

この合宿は、各々の研究方法、統計処理、論文構成に関してが討議の焦点であった。自分では渦中で気付かない点について、様々な視点から助言をもらうことができたのではないと思う。合宿前の何とも言えぬ重圧感(筆者の怠慢が原因であるが…)と脳神経フル回転の合宿日程であったが、もはや我が脳は知恵熱を発生しないエネルギー不足の状態なのか…何事もなく終了した。どっぴりと助産婦の世界に浸かっていた筆者も、わずかながらも他流試合を楽しめる余裕ができたのだろうか？！

この合宿では、“たぬき”と名乗る女性と浴場で出会い、春の唄を合唱し、風呂上りには肩まで揉んで頂いたという不思議な体験もした。また、花より団子派の筆頭である筆者も、国立婦人会館の広庭の新緑と花の美しさにはさすがに心和んだ。

メンバー交代があるもののゼミ合宿は続く…。